

神戸常盤短期大学 衛生技術科卒業 2期生の酒井啓子です。計算するとすぐ年がわかると思いますが、還暦を過ぎてても仕事を継続させてもらっています。早く後輩たちに仕事を譲って下さいと思われるだろうなと思いつつながら。

50歳の時、糖尿病療養指導士の資格を取得し、2回目の更新も終わりましたが、取得したことで、他部署との連携、業務拡大にもつながり、検査部は長い間臨床検査技師1人でしたが、現在4人になりました。一人だけの時は、なかなか学会などへの参加もできませんでしたが、増員されたことで、時間も取れるようになりました。

11月12・13日 第15回広島県臨床検査技師会東部地区学会の開催。

学会のテーマは『災害対策～備えあれば憂いなし～』

教育講演『災害と臨床検査～その時何が出来るか？何をしなければならないか？～』

神戸常盤大学准教授 向井正彦先生

学会への参加は公共交通機関の便の悪い所だし、車の運転も出来ない私には行けないなと思っていましたが、神戸常盤大学という文字を見て、何とかして参加しようと友人を誘って参加しました。

向井先生は阪神淡路大震災の時の経験を講演されました。

人、物、情報があれば何とか出来る。あれないからこれはできない！と、ない！ない！ではなく、できることを探すこと。どうすれば出来るか？代用出来ることはないか？を考えること。

思い出せば阪神大震災の3日前、1期生の山路さんが発起人で第1回神戸常盤短期大学同窓会を開催しました。(あれから毎年1回当番制で同窓会を開催しています。)

1995年1月17日のことを1996年10月ときわびとNo23に私は次のように書いていました。「テレビの中の神戸は壊滅状態。一瞬目を疑い、あれはテレビの中のことだと思いたい心境でした」と。

3月11日は東日本大震災。当たり前前の生活が当たり前でなくなった日。温暖な気候の瀬戸内海に住む私は、危機管理に対して、真剣でなかったこと。何の備えも出来てないことに気づかされました。検査室の危機管理。備えあれば憂いなし！検査部のみんなと考えようと思います。



神戸常盤短期大学の後輩(藤井さん、森本さん)と